

朋友

For You

新春号

沖縄セントラル病院広報誌

2013年1月1日発行 Vol.21



医療法人 寿仁会

沖縄セントラル病院
ユートピア沖縄

〒902-0076 沖縄県那覇市与儀1-26-6 TEL.098-854-5511 FAX.098-854-5519

URL <http://www.okinawa-central-hospital.jp/> E-mail o-centh1@nirai.ne.jp



Contents

2013(平成25年度)年頭所感

本年度は次なるステップの備えの一年に(理事長/大仲 良一).....	1~ 4
新年のご挨拶(病院長/宮城 航一).....	5
平成24年度の反省と新年の抱負(クリニック絆 院長/松本 光史).....	6
新年のご挨拶(看護部長/喜久川 美佐代).....	6~ 7
新年を迎えるにあたって(事務長/新垣 安雄).....	7

市民公開講座

切らずに治す“がん”治療 ~最先端の放射線治療について~(理事長/大仲 良一).....	8~ 9
「切らずに治す“がん”治療」を聴講して(放射線科/宜野座 工).....	10

スタンダードコンシェルジュ資格認定.....	11~ 12
ユートピア沖縄へピアノ寄贈.....	12
初めての海外旅行(臨床検査科 部長/我謝 光茂).....	13~ 14
憧れのハワイ旅行(フローゲン/金城 友一).....	14~ 15
新入職員紹介.....	16



2013年(平成25年)

明けましておめでとうございます。
謹んで年頭のご祝辞を申し上げます。

沖縄セントラル病院
理事長 大仲 良一

多くの職員が一年の計を立て、新しい年の第一歩を踏み出した事と思います。夢は大きい程いい、しかし、現実はその甘いことばかりではないことも承知しておく必要があります。

かつては5年、10年先でも或る程度の見通しがつけられた時代であった。しかし、昨今は1年否、1ヶ月先のことも予見出来ない程、世の中の変化は目まぐるしい。石橋を叩きながら歩を進めなければならない時代を迎えたが、着実に目標に向かって夢を追い求めて、日々精進されることを願っています。

世界中が痛み、日本が混迷し、沖縄が苦しみ、暗いニュースの明け暮れの昨今ですが、昨年10月に、再生医療への道を開くips細胞(人口多能性幹細胞)の研究開発によってノーベル生理学・医学賞に、日本の山中伸弥京都大学教授が選ばれたことは、久々に大変明るいニュースとなりました。すでに生体組織の一部になっている細胞から、別の生体組織へと変わる細胞に再生する技術で、これは再生医療のみならず、原因不明だった病気の発症メカニズムの解明や、新薬の開発にも活用され、あらゆる医学の発展に貢献することでしょう。臨床医を目指していた山中教授が最先端医学の研究開発に携わり、その困難に直面したとき心の支えにしていたのは、『目の前で苦悩する患者を一人でも多く助けたい』『病気に苦しむ人の役に立ちたい』という願いでした。

困難の壁に直面した時も自らの信念を曲げず、発想を展開し乍らでも目標に向かって、こつこつと歩み続けることが大切です。

本年度は次なるステップの
備えの一年に

さて、厳しい医療環境の中で、社会のニーズに答えられない医療機関は早晚淘汰されていきます。病院経営を考える時、限られた経営資源の中で、如何に付加価値の高い、患者様に満足される医療を行うかが重要である。人、物、金、時間、空間に代表される経営資源を有効に活用出来るか否かで、経営の将来性が決定されます。規模の大小、業種業態を問わずお客様、患者様に対応できない企業や病院は何れ潰れる。この事は世の中が高度成長であろうが、低成長であろうが変わらない原則であります。しかもこれからの時代は、高度成長の傘上げが期待できない丈に、お客様、患者様への対応の巧拙の差がそのまま露骨に業績に反映される時代であります。病院の利益も、職員の給料も、結局はすべてお客様、患者様が支払って下さっている、という視点に立つことが大切であります。病院の組織はお客様、患者様の為にあるものです。ともすれば病院の内部にだけ目を向けがちな管理職や、一般職員もいますが、病院の外部にいる患者様方が病院の業績を担っていると申しても決して過言ではなく、この事は須く全職員が肝に銘じておくべきであります。

理事長、病院長は病院の指針を決定する頭脳であり、中間管理職や、職員ひとり一人の役割は患者様、お客様との接点、つまり大切な触覚であります。触覚である第一線からの重大な報告、都合の悪いニュースこそ、一刻も早く経営者に届き、事態の正しい認識に基づいて判断し、決断は指令として一刻も早く現場のひとり一人にまで、周知徹底されなければなりません。

組織の規模がさほど大きくないのに、この数年来の当院の活性化が遅々として進まない。その原因は正確な情報の伝達が非常に遅く、およそ世の中の変化のスピードに逆行した病院組織になっている事です。部署によっては国の方針に遅れまじと、先手で真剣に取り組んでいる処もありますが、やゝもすると管理職をはじめ一般職員も危機意識が欠如し、どっぷりと温ま湯につかっている感が否めません。病院の理念に基づいて、その年度の方針が示されたら、例え個人の意見としては相容れないことがあっても目標完遂のためには、組織の一員としての使命を果たすことが責務であることを心得ていただきたい。理念のもとに諸規定を完全に順守し、常に積極的に活動に参画することです。

職員ひとり一人が仕事に主体的に取り組み、常に問題意識をもって、業績達成に向けて業務を遂行していく事が大切で、ビジネスとは与えられたものではなく、自らつくり出していくものだという意識が必要である。それがないと、単に上から与えられたノルマをこなす丈のネガティブなその日暮らしの仕事で、所詮、温ま湯につかった勤務態度になってしまうものです。

対面で心の触れ合いを

この数年来折に触れ繰り返し述べて来たように、現在当院に欠けているものの最大要因は

Communicationの欠如と再構築の遅れであります。Communicationとは何ぞや、社会生活を営む人間の間に行われる知覚、感情、思考の伝達で、その媒体は言葉、視覚、聴覚、文字等である。先ず顧客や患者様丈ではなく、基本的な問題として、職員同志笑顔で接し、気心を通じ合うことが、まず第一歩であります。これが明るい病院づくりの基本条件であります。ただ今、この瞬間から早速実践することです。

一期一会とは人間の交わりを大切にする貴重な言葉であるが、出会いの機会を大切にせよ、ということである。皆様ご縁があつて職員同志、顧客、患者様との接点があつたもので、この人生の宝を大切にすることが大事です。幕末の大老 井伊直弼がその著書 茶湯一会集 の中に述べているもので、本来は茶の席に臨む者は、巡り合う機会が一生に一度であると覚悟し、主人も客も誠をつくすべきであるという意味で、道としての茶道に緊張と真剣さを期待した言葉であります。機会は一度だけだと覚悟すれば、その場その時で何事にも真剣にならざるを得ない。そこから出会いの大切さを説く言葉となつたのであります。人生にはりハーサルはない、一度きりの人生で、この時、この瞬間は二度とない……。ということを個々の職員が肝に銘ずるべきであります。

連日のようにメディアを通して報じられているように、忌まわしい事件が続いて起きています。経済的、物質的には世界の何れの国より恵まれているのに、精神状態だけはどの国よりも貧しい脆弱な国民になり下がっています。子供の頃からの家庭環境、親の躰け、学校教育、荒廃した社会が歪んだ人間を造り上げています。自分さえ良ければ他人はどうでもよい、我関せずの風潮が至る処に残念乍らみられます。人の痛みを知らない人間が年を追うにつれて増えている事

が実感されます。社会全体が病み、個々の人間が善悪の判断に欠け、チャレンジ精神に乏しく、安易に流されていることに病院の将来わが国の未来が危惧されます。中には真剣に自らの病いと闘い命を賭して日夜励んでいるリーダーの許で、真摯に活動している職員や、遅くまで自らの職務に精励している部署があることには感謝にたえない。

石の上にも三年という諺があります。自らの意に合わない事、壁にぶつかった時には直ぐ give up してしまう。事に当たって初心を忘れ、物事に挑戦する気概のある人間が少なくなり、その日暮らして使命感に欠けた集団が、マンネリ化の大きな原因です。自分の人生は他人に挑戦する必要はない。自分自らに挑戦することです。己の過去に挑戦し少なく共、昨日よりは良い明日の自分を形づくる気概が大切であります。

他人が変わるのを待つ事なく
自らを精進すること

病院は多くの職員が、国家資格を取得したプロの集団である。経験豊富なベテランもあれば、まだ未熟な職員もある。一人前の職員の仕事とは、各自がそれぞれの才能と力量をあらん限り尽くすこととあります。そうすれば一人前の仕事を計る基準は己自身の中にある。果たして自分が一人前の仕事をし、一人前の人間であるかどうかを知るには己を先ず知ることとあります。自分の尺度で他人の仕事の評価する必要はない。他人から良い評価を受けるためには、自ら一人前になる為の精進を続けることとあります。

自らを顧みず、他を非難、批評することはいと簡単である。しかしそれこそが良き人間関係を損い、Communicationの悪化を招く元区である。心ない発言は暴力以上に人を傷つけるものである。

他人の長所を活かし、短所を互いに補い合う努力こそが必要であります。各役職者は自らの発言に責任をもち、他人の言葉を借りることなく(誤解曲解の原因となる)自らの責務を他人に転化せず、率先垂範することが求められる。経営トップの意向を最先端の職員にまで周知徹底させ、他方、ボトムアップによる情報を逸早く上申することである。即ち、配下のセクションのみならず、各部署間の潤滑油の役目にも徹することとあります。冒頭に述べたように『本年度は次なるステップの備えの一年に』この目標達成のためにはすべての医師を先頭に各役職者の姿勢こそが、今後の当医療法人寿仁会傘下の各施設の盛衰を左右する大きな要因であることを強調したい。職員は医療人としての誇りを持つ事が大切です。金さえあれば何でも手に入る世の中であるが、命だけは一人に一つ、そしてそのたった一つの命も健康でなければ生きる意義がありません。その命と健康を守る崇高な仕事に携わっていることを誇りに思っ精進することが大切とあります。

お互いに自己啓発に努めましょう。病める人々には心からの癒しの場であり、集える職員^{とも}の為には生涯、修養の館たらん事を。自己啓発をする最も善い方法は、異質の人との出会いとあります。

竹の成長は先端のみが伸びるのではなく、一筋一筋が成長して伸びる。その一筋こそが各々の職員であります。従って自己啓発が求められる。人間というものは強制されると反発し、嫌になるものである。自分が好きでやることは進んで取り組めても、押し付けられると駄目になることが多い。従って自己啓発とは、如何に自分で感じる事が出来るか、という事である。自己啓発にはその人によって色々な方法があります。例えば読書、読書の有益さは人の英知を知ること

だという。古人の言葉もあり、人は読書することによって色々な分野のインパクトを受けます。ただ読書だけではその分野に疑問を感じても、仲々結論は出せない。やはり一番の自己啓発は異質の人に会うこと、自分が今まで知らなかった専門外のことに触れてみるのが大切である。人を動かすものは感動であり、人を変えるものは出会いなのだ。私は異業種の代表の集団であるRotary clubで多くの刺戟を受けました。

異質なものにぶつかる時、人はハッとします。そういう感じ方というのが、一つの変わるきっかけになるものである。誘発されるということは、全く違ったものを持った相手であればある程、カルチャーショックは大きいと言えます。そして一番異質といえば若い人だったら年輩の方、年輩の人だったら若い人、男性だったら女性、女性だったら男性であり、健康な人なら病人であり、病をもった人であつたら健やかな人なのです。それから職員と経営者という視点もあります。経営者又は職員ばかりの発想だと限界があります。それから先に述べた様に、今の世の中の変化するテンポは非常に早い。その変化に自分を如何に合わせるか。将に一生涯、最後まで自己啓発を続けなければ人間も企業もだんだん衰退するのみである。幾つになっても絶えずチャレンジする姿勢を持ち続ける事であります。

では自己啓発を阻害するものは何か。日本人は元々農耕民族で、狩猟民族に比べると共同作業が中心であった為か、仲間意識が強く、別の世界に入っていくのが下手であるといわれる。同質を好むというか、同郷の人、同じ業界の人、同じ学生時代に学んだ仲間は良く

集うけれども、それ以外とは疎遠になってしまう。しかし、同郷、同業、同窓という三同ばかりでやっていると余り自己啓発にはならない。人間は他人から受ける啓発というのが一番大きいものである。見たり、聞いたりするのと同時に、その人自身から受ける感化は自らを大きく成長させるものです。

国家経済の逼迫と相俟って、今後医療介護の環境は益々厳しさを増すことが予測されます。職員一人ひとりがnegativ志向ではなく、果敢にチャレンジする姿勢が今、求められています。そして、時は待ってくれません。実践あるのみです。ナポレオンは自らの辞書の中には“不可能”という文字はない、と語った事は有名です。私も強調したい、医療法人寿仁会では『出来ません』という言葉は禁句にしましょう。出来ない厳しい事に対しては、無為に座して待つのではなく、事を成就する為にはどうすれば良いか、発想の転換をして果敢に挑戦することです。常にPositive志向で!!

1. 新規Perfection G.Kの導入と稼働の推進
2. 旧館の建て替え工事
3. 新規リハビリ事業の再構築
4. 病院機能評価機構の認可達成
5. 40周年記念行事
6. 自主防災の推進
7. 予防医学の更なる充実
8. 沖縄セントラル病院とユートピア沖縄の連携の強化と質の向上
9. Central care Village構想の発展

等と夢は遠大です。医療法人寿仁会、【沖縄セントラル病院、ユートピア沖縄、クリニック絆】をはじめ、傘下の各、高齢者支援グループ、BIMP保育園、すべての職員の一致団結した、弛まない前進を期待し年頭の挨拶とします。



新年を迎えるに当たって

沖縄セントラル病院
病院長 宮城 航一

新年おめでとうございます。皆様はどのような気持ちで新年を迎えられたでしょうか？“新年をこういう風にいきたい”とビジョンを抱いているかと思います。

私たちは過去を引きずって今を生きています。新たな展開に必要なのは、「過去・今の積み重ね」という自己認識と「未来の自分はどうかありたいか」というイメージです。しかし智慧なくしては“よく生きる”というイメージを獲得することは困難です。

さて、病院には「過去から続いてきた“現状”」があります。本院は、現状以上でもなければ以下でもありません。病院は法人組織ですので、われわれには当然、公的(社会的)な責任・役割があります。昨年12月7、8日と病院機能評価機構による審査を受けました。法人組織としての沖縄セントラル病院は、社会に対する説明責任を果たすために(現状をまとめた)年報を発行するの必要を言われました。また、病院の理念や基本方針を外部の方々(患者さまや社会)に提示することの必要も指摘されました(例えば入院のしおりなどに)。

各部門で取り組んでいることを院長や総務が確認できていない現状もあります。同時に、病院各部門が他部門を把握できるシステムが十分機能していないという実状があります。各部門が勝手気ままに仕事をしていると言われても仕方がありません。

昨年は、4月に感染制御チームがスタートしました。夏には、病室天井のコンクリート片の脱落事故や、リハビリスタッフの大量離職という残念な出来事もありました。11月12日からはガンマナイフセンターに、最新鋭機種の治療機器“パーフェクション”が導入されました。そして12月には、上に述べた病院機能評価機構の受審がありました。

2012年を表す言葉はこの原稿を書いている時点では発表されていませんが、わたしは“老朽化”ではないかと思っています。病棟のコンクリート片が落下したのには肝を潰しましたが、幸い人的被害はありませんでした。その後、応急的な対応をしましたが、築後約40年経過していることから建替えが必要な時期にきているようです。われわれには、建替えまで、安全に管理・運営することが求められています。私たちが日夜努力していることを成文化し、客観視できるようにその成果をまとめ、公表することも十分でないと、病院機能評価機構の受審でわかりました。

病院機能評価機構の求めに合致することだけではなく、より高い医療を提供できるよう、知識、技術、そしてその土台となる“こころ”・品性・センスのよさを身につけることが目的です。

沖縄セントラル病院が設立されて40周年を記念しようとしています。一言で40年といいますが、大仲良一理事長はこれまで大変なご苦勞と努力を積み重ねてこられたと推察しています。あまり理事長先生のお手伝いになっていないと思いますが、2013年を、2012年の現実認識の上に立って、大仲先生の病院への思いに沿いながら、職員と一緒に、沖縄セントラル病院を誇りに思える病院に発展するよい年にしたいと思います。

P.S. 昼食もとれない日も度々ですが、心が折れない限り“患者さまやスタッフへの気配りを大切に”をモットーに頑張りたいと思っています。スタッフ皆様のご支援をお願いいたします。



平成24年度の反省と新年の抱負

医療法人 寿仁会
クリニック絆
院長 松本 光史

皆様あけまして おめでとうございます。

昨年は赴任初年ということもあり、あまり大したことができませんでした。

年後半は近隣クリニック休業や県医師会の健康エッセイ新聞掲載により新規外来患者が若干増加傾向にありましたが、コンスタントな患者数となるようにより一層の努力をしていきたいと思ひます。その一環として市や県の医師会活動に参加してクリニック名や特色、そして私の名前や顔を覚えていただくようにしていきたいと思ひます。

予てから指摘していた各部署間での情報共有がまだ不十分だと考えます。医療機関にあっては患者情報の共有化が医療過誤防止や業務効率化の大きな要素だと思ひます。その患者情報共有化のシステム、構築を考えていきたいと思ひます。その為にはコメディカルスタッフへの教育、たとえば定期的な勉強会などを企画できればと考えています。

新参者で一朝一夕には実現困難かも知れませんが、粘り強く繰り返していくことが大切だと思ひますので、バックアップを何卒よろしくお願ひ申し上げます。



謹んで新年の ごあいさつを申し上げます。

看護部長 喜久川 美佐代

師走は、普段は走らない師も走るほど忙しい時期ということらしいが、私にとっては1年が走りっぱなしであった。そんな私も、今日はいつもよりちょっとお洒落な我が家で、色鮮やかなお料理を楽しみながら身体はゆっくり頭のなかは、今日も走っている気がする。

昨年は節目の年、病院創立40周年の記念行事。そして、社会保障・税一体改革に2025年のイメージを見据えた医療の実現に向けた診療報酬・介護報酬の同時改定。

ひたむきに走ってきたが「ともに走り続けてくれたスタッフは、息をつく間もなかったのではないか」と大いに反省した。今年こそは優しいこと穏やかな私でありたいと願う。

(職員の皆様、乞うご期待あれ！)

2025年、来たる超少子高齢社会。我々医療従事者は少ない人数で多くの患者様を支えていかねばならない。限られた資源を使い「あるべき医療体制」が構築されていくであろう。

しかしシステムはつくられたとしても、重要なのはその中に働く人の活動である。職員が自ら考え、どんどん動く活気あふれる職場づくりは大きな課題だ。

今年度の診療報酬改定の重点課題の一つに、「医療と介護の役割分担の明確化」と「地域における連携体

制の強化の推進」及び「地域生活を支える在宅医療等の充実」が掲げられた。これこそがチーム医療の原点なのではと考える。単に職種が協力して医療を良くしよう、とのスローガンのところから、適切な役割分担によって患者様が・入所者の生活が本当によくなったかどうか問われることだろう。

当病院の関連施設・ユートピア沖縄(サービス付き高齢者専用賃貸住宅)が開設し2年を迎えようとしている。核家族化が進み、在宅で家族が看るのは一層難しくなっている。

今日、ユートピア沖縄の基本方針は「健康と生活の両輪を整え、その人の生き方に寄り添う支援をしていく」ことである。入所者それぞれの人生の総仕上げに私たちの関わりの有り方を真剣に考える日々が続く。

～魅力ある職業として“職場づくり、人づくり、ネットワークづくりに推進”～

日本看護協会の重点政策として「労働環境改善の支援体制」を活用し、さらなる「雇用の質」の向上を図るための活動だ。離れそうになった「他の人と手をつなぐ力」をもう一度、暖かな手のぬくもりをしっかりと感じてみたい。病院から在宅へ、医療と生活をつなぐ看護職として、さらに大きな一步を踏み出そうではありませんか。新しい2013年どんな感動が待っているか楽しみです。改めまして今年もよろしく申し上げます。



新年を迎えるにあたって

事務長 新垣 安雄

明けまして、おめでとうございます。

新年を迎えるに当たり一筆申し上げます。

病院創立40年を迎えて、昨年、病院は大仲理事長のモットーとされる沖縄セントラル病院にしか出来ないオンリーワンの医療、他との差別化を継承すべく10年前に導入した定位脳放射線治療装置ガンマナイフを、更に高精度に進化させた2機種目ガンマナイフ・パーフェクションを11月に入替え、特に脳腫瘍の非侵襲性治療においては県内唯一の病院として今やその地位を確立するまでになりました。

その導入を記念し昨年9月2日の市(県民)講演会「市民公開講座 切らずに治す“がん”治療」、更には11月4日の県医師会館における医療講演会「レクセルガンマナイフ・パーフェクション導入記念講演会」を開催し、講師に①芹澤徹(築地神経科クリニック院長)②山本昌昭(勝田病院脳神経外科部長)③芝本雄太(名古屋市立大学大学院医学研究科放射線医学分野教授)をお迎えし、定位脳放射線治療の先端医療についてご講演を賜りました。これらにより、病院の対外的紹介にも力が注がれた年でもあったものと思います。

又、病院の運営の基盤となる施設基準については新たに3次救急病院との機能的連携を図るべく救急搬送患者地域連携受入加算、及び感染防止対策加算を新たに取り込み、近隣の3次救急病院との医療連携と医療情報の交流をより積極的に図ることで中規模病院としての質の高い医療の提供を果たすべく努めてきました。

一方、創立より40年も経ちますと、建物の老朽化に伴う台風時の毎度の浸水対策で、抜本的対策工事も検討せざるを得ない状況下であり2013年への1つの課題として持ち越すことになりました。

最後になりますが、地域に認められ評価される医療機関としてその名を広められる沖縄セントラル病院とあることを願い、2013年の年としたいものです。



切らずに治すがん治療 ～最先端の放射線治療について～

理事長 大仲良一

本日は市民公開講座『切らずに治すがん治療 ～最先端の放射線治療について～』ご案内申し上げましたところ、日曜日で家庭団欒の折にも拘わりませず、このように多くの皆様のご臨席を賜り衷心より厚く御礼を申し上げます。

今回は、我が国における放射線治療の第一線でご活躍の講師の先生方をお招きすることが出来ました。

わが日本は四方を海に囲まれ、四季折々の変化に富み、水と森が豊かな国です。私達日本人は有史以来何千年もの間、山と海からの恵みを受けながら、生活を営んで参りました。ところが、年輩の方々には決して忘れ去ることの出来ない広島・長崎に投下されたあの原子爆弾の惨状。そして2011年3月11日、東日本大震災に伴う福島第一原発の事故が起こって以来、私達はこれまでに経験したことのない、極めて深刻な問題に次々と直面することになりました。

先ず第一に、原発から漏れた放射性物質による発癌リスクの問題です。更に原発事故は他の問題を生み出しました。それは長引く避難生活や風評被害による精神的、経済的ダメージです。

それに追い打ちをかける恐怖心を煽るような情報や発言が、文字通り怒涛の如くテレビや出版物、インターネット等に溢れ返りました。このような現象が国民に不安や先入観、または放射線に対

する誤った知識を植えつけたと言っても決して過言ではないと思います。

放射線による不安は福島県の方々には申すに及ばず、全国民にとっても耐え難いものであります。ここで震災によってお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、ご遺族の皆様へ深くお悔やみを申し上げますと共に、被災に会われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。



風評被害を食い止め、正確な情報に基づいて行動することで被災地のより迅速な復興と、一人ひとりの方が一日も早く安心した暮らしを取り戻していただきたい。そして、放射線に対する正しい知識を身につけていただきたいという大きな目的で、ここに各専門の先生方をお招きした次第であります。

他方、放射線は1895年ドイツの物理学者ウィリハイム・コンラッド・レントゲン博士がX線を発見されて以来、医療の発展に大きな功績をあげ、今や放射線は医療現場においては検査や治療の面で、決して欠く事のできないもので、人類に大きな福音をもたらしています。

古今東西、不老長寿は人類の果てしない夢であります。森羅万象“死”は避けて通ることができない現実であります。現在わが国の死因の第一位はガンです。しかし癌患者さんの半数は既に治る時代になってはいますが、“ガンになれば死ぬ”というイメージがまだ国民の間にはあります。ガンになる前にガンを正しく知ることがとても大切です。

ガンの治療には外科的手術、放射線治療、化学療法の一つの柱があります。そしてガンの半分は放射線治療が世界の常識になっています。

私共、沖縄セントラル病院におきましては、すでに十数年来、コバルト60という放射線を使用したガンマ・ナイフという最新鋭の医療機器で、脳腫瘍をはじめ、脳血管障害等、約2000例の治療を行い、良好な成績で県民の頭部疾患の治療の一翼を担っております。

放射線治療のメリット、特徴につきましては後程、講師の先生方から詳細にお話を伺えると存じます。長丁場の本日のご講演ですが、放射線に関する正しい知識を会得されまして、今後の生活の指針に是非、活かしていただきたく存じます。どうか最後までご清聴の程、宜しく願い申し上げます。主催者としてのご挨拶といたします。

謝々



「切らずに治す“がん”治療」を聴講して

主催 沖縄セントラル病院 場所 那覇市民会館

放射線科 宜野座 工

講師の先生は、大阪大学名誉教授・医療法人友絨会彩都友絨会病院長、中村仁信先生による「放射線被ばくの人体影響」、慶応義塾大学病院放射線科教授、林基弘先生による「脳腫瘍はもう怖くない！人生を手術する。からだにやさしい最先端脳神経外科治療ガンマナイフ」と言う演題でした。

中村先生からは医療放射線から自然放射線、チェルノブイリの原発事故によるその後の生物に対する影響まで幅広く解説してくださりました。特に放射線治療を行っている患者さまにとりましては被ばくによる副作用が心配されるところですが、正常細胞にはしきい値があり一定の線量を超えなければ障害が発生しないことを一般の方々に理解していただけたと思います。またチェルノブイリの事故後、自然界の放射線に対する回復が意外と早く、動植物が少しずつ戻ってきていることに、自然のたくましさを感じました。茂松先生からは、放射線を使用した治療を報告していただきました。放射線治療にもさまざまな種類があり、大型の機械を使うリニアックやサイバーナイフ、密封小線源を使用する治療、当院に設置されておりますガンマナイフ治療などがあります。正常細胞のダメージを最小限に抑え悪性腫瘍を根治する考えは茂松先生始め、放射線治療に携わる先生方の努力と治療機器の技術的進歩に伴って精度と効率が増えています。現在放射線治療を行っている患者さんにとって希望の持てる講演になってのではないのでしょうか。最後に林先生ですが、当院にも導入されているガンマナイフ治療の第一人者であります。脳腫瘍や脳血管の奇形など脳の病気を開頭せずに、しかし、まるで病変をナイフで切り取るかのように治すので「ガンマナイフ」という名前がついたそうです。テレビにも多く出演し、その一部を講演の間に上映されていました。治療技術だけではなく、先生の人柄もあり、非常に患者さんから信頼されていると感じました。

「数年前まではがんが脳転移した場合、それが原因で命を落とす人が85%にも達していました。それが最近ではガンマナイフの普及により10%台にまで低下しています。一般的な認知度はそこまで高いとは言えませんが、脳に転移したがんの97%はガンマナイフで治せます」と林先生は語ります。

もっとも日本では、治療機の普及台数は少なく、全国でも55機ほどにすぎず、沖縄県内では唯一セントラル病院でしかガンマナイフ治療を行う事ができません。その最新機種が11月より稼働します。新システムでは0.1ミリ、髪の毛1本分ほどの精度で照射できます。照射位置の設定を手と目で行っていた以前のシステムは0.5ミリ。新システムでは設定がフルオートマチック化し大幅に手間と時間が短縮できます。また治療計画を立てる際に必要なCT(コンピューター断層撮影)やMRI(磁気共鳴画像装置)などの進歩もあって精度が飛躍的に向上しました。

今後はより高精度かつ広範囲な治療計画、さらに時間短縮による患者さんの負担軽減が期待できます。

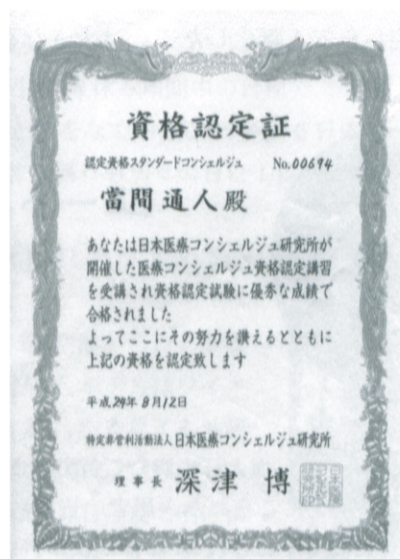
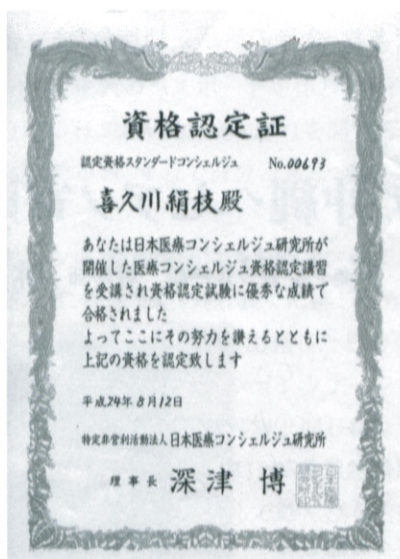
おめでとうございます スタンダードコンシェルジュ 資格認定



沖縄セントラル病院
健康管理部長 喜久川 絹枝



ユートピア沖縄
用度課長 當間 通人



コンシェルジュ (conciierge) の職能

理事長 大仲 良一

現代社会はパーソナル・コンピューター、i-phone、携帯電話等を介して、瞬時に多くの情報が入手できる時代であります。生活が大変便利になった反面、一方では人間相互の心の触れ合いが、時と共に疎遠になってしまいました。

昔は平和通りマチグラーのオバー達の日常茶飯事の会話の中で、また糸満の逞しい魚行商のオバー達が田舎各地を巡り諸々の情報源にもなったものです。ところが現代では“向う三軒両隣り 何をする者ぞ”という例えで象徴されるように、大都会から近年は片田舎まで自己本位で、他人のことは我関せずの風潮が年々強くなり誠に由々しい社会になりました。

特に文明の利器の恩恵に与られない弱者、高齢者には、極めて住みづらい世の中になっています。

社会の急速な変化、複雑な人間の利害関係、難解な法の解釈等に、独りでは解決できず、第三者のサポートを要することが増えてきました。そのような、困っている方々のために“one stop”で積極的に援助して差し上げるのがコンシェルジュの一つの役目です。

即ち個人と全体の満足度の向上に寄与することです。病院におけるコンシェルジュとしてはジェネラリス

ト(包括的、全体的)とスペシャリスト(専門的)なものがありますが、前者はコミュニケーションを介して全体の満足度に寄与し、後者は対象が明確で、より専門的な立場で解決に導くものです。

例えば単的な事例をあげると病院の待合室で、待ち時間が長いにも関わらず、現場でその理由を説明されず、患者さんが苛々している。これに対するone stopでの解決策を助言することであり、後者は医師やメディカルスタッフ或いは患者さんとの間のより複雑で法的な問題に発展し兼ねない専門的な事例への対応で弁護士等への仲介業務もその一つである。

病院には多くの弱者が居られます。老若男女様々な顧客が訪ねて来られます。このような方々のニーズに全職員が果たして親身に応えているか。今、自分の目の前に居られる方が、何を求めて何をして差し上げられるか、全職員が感性を磨き、文明の利器から一步離れて人間本来の生き方、あるべき姿に軌道修正することも必要ではないか。ここにコンシェルジュという職種が生まれた由縁ではないでしょうか。今回、コンシェルジュが当院から二人誕生したことは大きな喜びであり、今後の活躍を期待したい。



ユートピア沖縄へピアノ寄贈

沖縄セントラル病院 看護師 桃原 智子さん

戦前、戦中、戦後と永い年月、血と汗の滲むご苦労をされ、現在の豊かな我が国の発展への礎を築いてこられた入居者の皆様、さらにデイサービス“アミーゴ”で日々楽しんでおられる、お体のご不自由な方々の癒しのために、些かなりともお役に立てたら…という崇高な思いで、この度、ご本人やお子様大切にこられたピアノを寄贈して下さいました。

誠に有難うございました。末永く大切に活用させていただきます。



古いオルガンの音とピアノの響き

理事長 大仲 良一

それは、今を去る65年前、終戦後の中等学校7年生(現在の中学2年生)の秋の夜、台風で辛うじて倒壊を免れたトゥバイフォーの木材で造られた校舎の片隅にポツンと置かれていた一台の古いオルガン。

放課後の教室の当番清掃を済ませ、帰宅間際に周囲に誰も居ないことを確かめた後、先生の許しを乞わず勝手に大切な備品(オルガン)に恐るおそる指を触れた瞬間、吃驚

校長(音楽・国語担当)が来られた。日頃から厳しさを名高い先生で、お咎めを覚悟していたが、思いの他、笑顔で“音楽が好きか”と自ら“荒城の月”を弾いて下さり、そのオルガンの響きと曲の美しさに幼い感性ながら感動したものである。

このように懐かしい音を醸し出してくれた楽器オルガンと、一方、自らの疲れを癒し、子供たちの情操教育のために、長い間、親しんできた貴重なピアノをご寄贈いただいたことに心からの敬意と感謝を申し上げる次第である。本日このピアノを迎えるに当り、我が幼い頃のオルガンの思い出が走馬灯のようについ重なって筆を走らせた次第である。どうか、時折、桃原さん自らこの鍵盤に触れ、館内の皆様を癒して下さいることを切に願っています。有難う



初めての海外旅行

臨床検査科
部長 我謝 光茂

理事長より、「アジア、ハワイどちらに行きたい」と問われて返事に戸惑った。永年勤続のご褒美として海外旅行へとのことだった。自分は生涯海外へ行く気は無かったが、行くとなれば家族も共に連れて行く事にためらいがあった。家族全員が同じ飛行機、共に行動して万が一の事があれば……？と言う気の弱さが今でも存在する。しかし、折角のご厚意に対して、意を決する事とした。自分の出費もかなり高く付くが、「家族も全員連れていきます」と理事長へ報告。さっそく、家族のパスポートを作り、息子(大学生)の夏休み期間中の日程で、旅行社と調整するも家族全員が同じ日に行ける日が無いとの事。それを聞いて、ほっと胸をなで下ろした。4泊6日のコース、5人家族で1人は嫁いで名古屋に居る為、4人で自分と息子、妻と娘、行きも帰りも別々の日に1日ずれて飛行機に乗りハワイへ向かった。

那覇→関空→ホノルル。移動時間は待ち時間含めて半日以上要したが、初めての海外旅行で気も高ぶり、快適な空の旅、長くは感じなかった。

ホノルルへは時差のため日本時間の出発した日の朝に到着。空港からDFSまでバスで送られ、そこで4日間のオプションツアーを申し込んだ。ホテルはワイキキビーチのすぐ近く、街路樹や庭木は沖縄と同じ様な木々も多く、空を見ても沖縄と同じ空なのに違うように感じた。初日は、息子と二人だけで何することもなく、ホテルの近くを散策して、その後ホテルでのんびりと過ごした。翌日は夜も明けぬ



ダイヤモンドヘッドからの御来光

5時前に起床。ダイヤモンドヘッドからの御来光を見る早朝ハイキング。ツアーの送迎車で15分程の時間で麓に着き、そこから頂上

まで歩いて30分程要した。若干曇りかけて既に日の出は過ぎていたが、雲の隙間から何とか御来光を拝む事が出来た。その後、送迎車に乗り朝の9時頃ホテルに到着。そのころ、

妻と娘は1日遅れてホノルル到着。そこで家族がそろい3日間のツアーを共にした。レンタカーを借りて幾つかの名所へ行きたい所だが、カーナビを頼りに目的地に向うも、車は日本とは逆の右側通行。交差点を曲がるとき何度も車線を間違え息子が怒鳴られる。ドキドキ運転しながらも無事目的地に到着。

観光用の潜水艦に乗り海の中も潜った。ハワイ諸島は火山が噴火して出来た島、潜った場所は珊瑚礁も無く、人工の漁礁は数あるも魚は少なく、沖縄の海のほうが綺麗だなと思った。夜は、バーベキューやディナーショーと贅沢な夜を過ごした。

最終日は、ためらいがあった飛行機に覚悟を決めて、4人同時に乗りカウアイ島めぐり、自



宿泊ホテル



ワイキキビーチ

分の家族を含め8人のツアーでガイド付きの小型観光バスに乗り各スポットを巡った。

翌日、自分と息子は沖縄へ向けてホノルルを発つ。妻と娘は2日間延長して火山が間近に見ることができるハワイ島等を観光した。

一生に最初で最後かと思う今回の旅行。初めての家族旅行で心配もありましたが無事楽しく旅行を終えて、機会を与えて下さいました大仲理事長へ感謝申し上げ旅行の報告とします。



潜水艦船上から望むダイヤモンドヘッド



潜水艦から見たワイキキビーチ近くの海の中



潜水艦から見たワイキキビーチ近くの海の中



憧れのハワイ旅行

メディカルフィットネスクラブ
フローゲン 金城 友一

「金城君、パスポートは作りましたか？」今年の夏、理事長は幾度となく私にそう尋ねかけてきた。その度に「いえ…その…まだ…」と言葉を濁す私。「この自分がハワイなんて…」遠慮する気持ちと、長くフローゲンを留守にする不安があった。しかし、蝉が鳴かなくなり始めた頃「理事長のご厚意に時には甘えてみるのもいいか」と決心。生まれて初めて、パスポートを作成した。

また、この際だからと、日頃苦勞をかけている妻の同行を理事長に相談、快諾を得、これで晴れて夫婦揃ってのハワイ旅行となった。

9月24日、出発当日。那覇空港からJTA機で関空へ、そこから日航機に乗り換えてハワイまで約8時間の長旅。しかし、機内では2度の機内食に加え、フリードリンク(アルコール類も)、最新の映画も見放題と至れり尽くせりで、フライトの長さもそう苦痛では無かった。ただし、ハワイと日本の時差はマイナス19時間、関空を9月24日の夜10時半に飛び立ち、ハワイに降り立ったのは同日の午前中、同じ日をやり直すような何か不思議な感覚だった。

空港からDFSホノルルまで送迎バスの車窓から眺める街並みはとても美しく、街路樹の豊かに枝葉を広げる大木や美しく咲き誇る花木が特に印象的だった。また、どの家も庭木が立派に育てられ、沖縄のように「土だけになったプランターや鉢が家の前に放ったらかし…」という家は一軒も見られなかった。後から聞いた話では、ハワイでは庭などの植木でもキレイに管理していないと州から罰金とのこと。さすが観光先進国だと感心した。

さて、私たちが宿泊したホテルはホノルルの中心街にあり、観光やショッピング、食事、全ての面で好立地だった。しばし、部屋で休憩した後、そろそろお腹も空いてきたことだしと、ホテル内の観光案内所で紹介してもらったレストランへ。事前に家内とも話し合っていたことだが、人生最初で最後のハワイ旅行かもしれないから、朝と昼は軽食で済ませても、せめて夕食(ディナー)だけでも豪勢にしようとの計画通り、そこはホノルルで一番人気が高いという高級ステーキ店。厚さが5

cm程もある牛肉をレアで食した。「血のしたたるような…」とは陳腐な表現だが、まさにこの事だと初めて実感。結局、ハワイ滞在中、私と妻は毎晩「血のしたたるようなステーキ」を食すのだった。それから、ホテルに戻るとプールサイドへ。ここでは、毎晩生バンドの演奏とフラダンスが催されており、ビールを飲みながら星空を眺め、まさに至福の時であった。

ハワイは4島からなるが、今回私達が旅したのはホノルルのあるオアフ島。移動の交通手段は主に無料のバスやトロッコバス。トロッコバスは窓にガラスが無く開放的、雨の少ないハワイならではの乗り物だ。また、ハワイは天気も陽気なら人も陽気、目と目が合えば笑顔で「アロハ」。だから、バスの運転手も運転中に歌を唄ったり、乗客と冗談のかけあい(と思う)をして笑いが絶えず、乗車中も飽きることがない。また、ハワイといえば、ワイキキビーチに代表されるように、海が印象的だが、意外と山岳地帯もあり、そこには常に雲がかかり、海岸沿いは晴天、山は曇天、強風の名所もあり、一年の大部分が雨の地域があるかと思えば、ダイヤモンドヘッドなどは乾燥地帯と小さな島なのに気候は様々。あまり知られてないことだが、11~12月の2ヶ月間はハワイの雨季とのこと。なので、ハワイ旅行を計画している方は、その期間はできるだけ外した方が良いのかも…。それから、ハワイに日本人観光客が多いのは昔から有名だが、今回の旅行では、同じ位多くの中国人観光客を見かけ、近年の中国の経済発展を直に感じる事ができた。その他、日本人から見るとハワイは観光地という側面ばかりがクローズアップされるが、米国本土から来島する人々は高齢者や障害者の方も多く、保養地としてのハワイの一面も垣間見ることができた。

かつて、第二次世界大戦の日本軍真珠湾(パールハーバー)攻撃によりアメリカで唯一戦災を受けた地、ハワイ…。パールハーバーの海底には、その時海底に沈んだ戦艦「アリゾナ」が今でも静かに横たわり、60余年の時を超え、戦争の悲惨さを現在に伝えていた。このパールハーバーを始め、沖縄同様に広大な軍事施設を抱えているのも観光地ハワイのもう一つの側面であった。さて、楽しかった旅も最終盤、私たちがハワイでバカンスを楽しんでいた頃、古里沖縄では台風18号が猛威を奮っていた。現代はインターネット社会、ハワイにいても沖縄の情報は即得することが出来る。留守を頼んでいた新築の我が家も気になったし、それよりも何よりも、ちゃんと沖縄に帰ることができるのか、それが一番不安だった。「台風よ早く過ぎ去ってくれ」と祈りつつ帰路の便に搭乗。朝一のJALのオフィシャルサイトでは自分らが搭乗予定便の一つ前の便まで欠航が決定、大変厳しい状況だった。そのことを客室乗務員に説明、機長から日本の管制部に連絡を取ってもらい、現地の状況を確認してもらうことになった。数時間後、「予断は許さないが、現在のところ、通常通りフライトの予定」との回答。ほっと胸をなでおろすと共に、日航クルーの適格な連係プレーと親切丁寧な対応に大感激。しかし、ほっとしたのも束の間、関空ロビーでベンチに腰掛けてしていると「沖縄行き〇〇便は到着地那覇の天候によっては引き返す事態も想定されますのでご了承ください」とのアナウンス。



本当に安心できたのは機内で「機長の〇〇です。この〇〇便は機長の私が責任をもって那覇空港に着陸することをお約束します」と聞いたときだ。

どこからともなく、パラ、パラと拍手が起き、やがて機内は大きな拍手の渦に包まれた。小一時間後、いつもより暗い沖縄の街並みを眼下に機体は静かに空港に降り立った。日付が変わる少し前だった。迎いの車を待つ間、頭を非日常から日常モードへ切り替えた。「後、7時間で仕事が始まる。でも、その前に台風の片付けをするから寝れるのは2~3時間。」でも確かに体は重いはずなのに不思議と心はとても軽かった。「ケセラセラ」ウチナーグチでは「なんくるないさ」か…今回の旅でハワイアン陽気な性格が感染したのかもしれない。

「アローハ！」

外来・ドック・訪問診療 担当表

診療科	午前/午後	月	火	水	木	金	土
健診・人間ドック	午前	國吉 永二	中村 紀彦	瀬尾 駿	國吉 永二	中村 紀彦	石田 眞一
内科 1	午前	石田 眞一	國吉 永二	中村 紀彦	石田 眞一	國吉 永二	中村 紀彦
	午後	加藤 健作	加藤 健作	石田 眞一	中村 紀彦	加藤 健作	石田 眞一
循環器内科	午前		鈴木 信 (第2・4)	鈴木 信			
	午後	鈴木 信			松本 光史	鈴木 信	
内視鏡	午前	加藤 健作	羽地 周作	羽地 周作	加藤 健作	加藤 健作	羽地 周作
	午後						
脳神経外科	午前	宮城 航一	大仲 良一	大仲 良一	大仲 良一	大仲 良一	大仲 良一
	午後	宮城 航一	宮城 航一	宮城 航一	外 間	宮城 航一	宮城 航一
脳ドック・高気圧		大仲 良一	大仲 良一	大仲 良一	外 間	大仲 良一	大仲 良一
特殊外来 (ガンマナイフ・ パーキンソン)	午前						
	午後	宮城 航一	宮城 航一	宮城 航一	外 間	宮城 航一	宮城 航一
皮膚科	午前				玉城(琉大)		
	午後						
外科	午前						
	午後				下地 英明		
整形外科	午前	平 宏章	仲宗根(琉大)	平 宏章	平 宏章(病棟)	平 宏章	
	午後	平 宏章	仲宗根(琉大)	平 宏章	平 宏章(病棟)	平 宏章	
心療内科		※石津先生(不定期 月1~2回) 完全予約制					
歯科	午前	當間 里花	當間 里花	當間 里花 仲程 留奈	當間 里花 仲程 留奈	當間 里花	當間 里花 仲程 留奈
	午後	當間 里花 仲程 留奈	當間 里花	當間 里花 仲程 留奈		當間 里花 仲程 留奈	
訪問歯科	午前	仲程 留奈	仲程 留奈			仲程 留奈	
	午後						

平成24年11月6日実施

※宮城先生(脳神経外科 月曜日午前の最終受付は12時00分まで)

■受付時間: 午前8:30~12:30/午後13:30~17:30

■診療時間: 午前9:00~13:00/午後14:00~18:00

◎ガンマナイフセンター直通: 854-5516(内線: 217)

◎高気圧酸素治療センター: (内線: 115)

◎リハビリテーションセンター: (内線: 500)

◎健康管理センター: (内線: 214・223)

●人間ドック ●脳ドック ●一般検診 ●特殊検診(航空身体検査・高気圧業務検査)

●メディカルフィットネスセンター「フローゲン」直通: 854-5541(内線: 502・504)

◎医療福祉相談室 直通: 855-7200(内線: 219)

発行人: 寿仁会理事長 大仲 良一 編集: 沖縄セントラル病院広報委員会 新里 善一 新里 幸男 宜野座 工 城間 啓多 神山 弥生

※当院敷地内は禁煙となっておりますので、ご理解ご協力の程をお願い致します。